

## 【第1部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
岡山操山	<p><b>野生生物犯罪は防ぐことができるのか ～日本の現状を考える～</b></p> <p>動植物の違法な取引や採取、輸出入といった野生生物犯罪を防止するための対策について研究した。現状の取組によって野生生物犯罪が減少するかどうかを、日本での認知度と日本の法律の二つの観点から検証した。その結果、野生生物犯罪に対する日本人の意識が低く、法律も十分ではないことが明らかになった。したがって、野生生物犯罪を防ぐことは現状の取組では難しく、新たな対策が必要であると考えた。</p>
岡山城東	<p><b>シンボルマーク ～過ごしやすい社会～</b></p> <p>私達は社会福祉に関するマークの普及について研究している。多様な人々が共存する中で、誰もが過ごしやすい社会にするためにマークの普及は必要不可欠と考えている。校内アンケート結果の考察からマークの普及が不十分であると考え、普及が進まないのは、マークの意味が分かりにくいからではないかという仮説を立て、検証している。その中で、マークのキャッチコピーを作り、普及する取組を模索している。</p>
瀬戸	<p><b>Here I am ～オレンジリボンで包む子どもたちの笑顔～</b></p> <p>私達はすべての子供が幸せに過ごしてほしいと考え、児童虐待防止の象徴である「オレンジリボン運動」について探究している。日本の意識調査ではこの運動の認知度が約3割と非常に低いことを知った。そこで、この運動を広めるために、岡山市役所子ども福祉課と協力し、ファジアーノ岡山の公式戦会場で1,000枚のチラシを配った。また、地元のパン屋や洋菓子店には、自作のポスターを飾ったりすることができた。</p>
倉敷青陵	<p><b>生理の貧困から見えるもの ～物理的・意識的な観点から考える～</b></p> <p>コロナ禍によって注目されている生理の貧困への対応策を考える。複数の団体へのインタビュー調査などにより、生理の貧困はデリケートな問題として触れられず、支援が不足しているという実態が見えてきた。また、この問題は金銭面にのみ発生するのではないと分かった。この問題を根本的に解決するためには物理的、意識的改革が必要である。学校、地方自治体、支援団体との連携も含め、ここ倉敷で私達に出来る事は何かを考えたい。</p>
玉島	<p><b>糸の長さや曲げた回数による音の大きさの関係</b></p> <p>糸電話の糸の長さや糸の曲げた回数を変えることによる、音の大きさの変化を調べた。まず、1m、10m、30mの糸を準備し、一方から音を出し、もう片方を騒音計で20回測定し、平均値を得た。次に、10mの糸を最大で4回曲げ、同様に平均値を得た。大きさは糸を長くすると減少し、曲げた回数を増やすと増加した。減少した原因は音が伝わる距離が長くなったからであり、増加した原因は張力が大きくなり、糸のたるみが無くなったからであると考えた。</p>
玉野	<p><b>フィンの形状改良による競技用モデルロケットの開発</b></p> <p>私達は、フィンの形状を改良することにより、高度競技及び滞空競技に適したモデルロケットの開発に挑んだ。そして、得られた成果をもとにモデルロケット全国大会に出場し、滞空競技では全国第3位に、また、女子チームで第1位、中高生チームで第3位を獲得した。</p>

【第1部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
玉野 光南	<p><b>「たまのチューデントプログラム」活動報告</b></p> <p>私達は玉野市の「たまのチューデントプログラム」に参加し、1年間活動してきた。玉野市のボランティアガイドや瀬戸内国際芸術祭のサポーターの方からのレクチャー、フィールドワーク、インスタグラムでの投稿などの活動を通して多くのことを学ぶことができた。地元玉野の魅力に気づくことができ、その魅力を多くの人にも知ってほしいと思えるようになった、このプログラムの活動報告をする。</p>
高 梁	<p><b>空き家活用</b></p> <p>高梁市では、人口減少に伴い、少子高齢化が深刻に進行している。現状に歯止めをかけるには、空き家を有効活用した市外からの流入促進が一策になると考えた。</p> <p>校内調査で高校生の空き家に対する認知度をリサーチした後、空き家を活用したカフェを訪問しての聴き取り調査や、空き家リノベーションに参加した。これらの活動から得た知見をもとにパンフレットを作成し、空き家とその活用法について市役所に提案する予定である。</p>
邑 久	<p><b>ジャンボタニシ（スクミリングガイ）による稲苗の食害軽減と肥料化に向けて</b></p> <p>スクミリングガイによる稲苗の食害被害が、近隣の水田でも深刻化している。そこで、貝の効果的な捕獲法研究に取り組む中で、段ボールと米ぬかを組み合わせて設置することで多くの貝が捕獲できることがわかり、田植えの時期に、貝の捕獲を行ったところ、ある程度、被害が軽減できた。また、捕獲した貝の肥料化についても取り組み、数か月発酵・乾燥した貝を、ある割合で畑の土に混ぜ込むことで、効果が見られることがわかった。</p>
鴨 方	<p><b>デザインの学習を通しての地域連携の可能性</b></p> <p>社会や地域の中で実際に活用されるデザインの意味や重要性について、地域に密着した具体的な題材を通して学習することで、地元「あさくち」についての理解と想いを深めることになった実践事例</p> <p>①『浅口市社会福祉協議会広報誌掲載「季節をテーマにした4コマまんが」の制作』 ②『浅口商工会主催「あさくちフェア」で使用する販売促進用前垂れのデザイン』 について発表する。</p>
和 気 閑 谷	<p><b>耕作放棄地の活用</b></p> <p>和気町には、現在耕作が行われていない、耕作放棄地がたくさんある。そこで、私達は、その一角を借りて、活用方法を模索している。</p> <p>現在の耕作放棄地は、草が生い茂っている状態である。そこで、地元の方から山羊を借りて除草できないかと試してみたが、山羊は草の柔らかい葉の部分しか食べず、根っこまでは完全に除草できなかった。今後は、草刈りをし、土を反して、畑として復活させていく方針である。</p>
矢 掛	<p><b>やかげ学 10年</b></p> <p>町内12施設で毎週木曜日に実習活動を行っている「やかげ学」も10年を過ぎた。今まで500名以上の卒業生が「やかげ学」を体験し、現在では地域社会の様々な分野で活躍されている。今回のステージ発表では、現在の「やかげ学」の取組を簡単に説明し、実習施設の方々や卒業生へのインタビューも踏まえ、この授業が自分たちの暮らしや地域にどんな影響をもたらしているのかを考えてみようと思う。</p>

【第2部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
岡山 一宮	<p><b>nナッチ数列の隣接2項間の比の極限</b></p> <p>第0項を0、第1項を1として、それ以降の項は前2項の和で表される「フィボナッチ数列」を一般化し、第0項とそれ以前の項を0、第1項を1として、それ以降の項は前n項の和で表される「nナッチ数列」を考える。この数列において、第k項と第k+1項の比で<math>k \rightarrow \infty</math>の極限を調べた。結論としてこの極限は収束し、その収束値はnに依存したn次の特定の方程式のもつ解のうち、唯一の正の実数解であることを証明した。</p>
高松 農業	<p><b>エフカ・ド・カフェ ～シーズンⅧ～</b></p> <p>「自分たちで作ったケーキを自分たちのカフェで、お客様に直接提供し、味わってもらいたい。」という純粋な思いで、9年前に立ち上げられた地域開放型カフェ「エフカ・ド・カフェ」の活動記録である。昨年度と今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、カフェ空間での提供を断念するしかなかったが、「コロナだから出来ること」を合言葉に、テイクアウト商品の開発と提供、来年度以降の後輩への伝承に力を注いでいる。</p>
倉敷 天城	<p><b>刀の生産地を比較 ～備前とその他の地域～</b></p> <p>本研究では、備前刀が他の生産地に比べ、国宝、重要文化財で圧倒的な数量を誇っていることから、備前刀と他の産地の刀は何が違うのかを明らかにすることを目的とした。それらの刀の違いを明らかにするために、国指定文化財データベースから、指定品の刃長、反り、元幅の数値の調査を行った。その結果として、地域ごとに数値に大きな違いがあることが分かった。また、備前刀の特徴を明らかにすることができた。</p>
倉敷 鷺羽	<p><b>エシカルでつながる今と未来</b></p> <p>エシカルな社会の実現に向けて、地域で取り組まれている活動や自分たちにできる活動について発表する。そもそもエシカルとは何だろう。地元児島にある企業の株式会社ジャパングループ、明石被服興業株式会社取材し、紹介する。また、子ども食堂にボランティアに行き、地域の方々の思いを聞いた。誰もが住みやすい街づくり、みんなで街をハッピーにするために私達ができることは何かを考えたい。</p>
笠岡	<p><b>笠岡市の耕作放棄地の減少にむけて</b></p> <p>笠岡市の耕作放棄地の増加という課題を知り、その減少につながる仕組みを明らかにするために探究活動を行った。内容は、耕作放棄地を活用し農業を行っている農家の方へのインタビューや前述の農家の方が地域の人に向けて野菜を販売している直売所のイベントへの参加、その顧客へのアンケート調査などを行った。その結果、耕作放棄地の減少には、収入の安定や農業者と地域の人との関係性などが大切であることが分かった。</p>
笠岡 商業	<p><b>北木島観光ツアー ～ぐるっと一周北木の魅力～</b></p> <p>日本遺産に認定された北木島の石の文化・歴史には多くの魅力が詰まっている。しかし、島民の高齢化が進み、その魅力を伝承する若者がいない。その問題を解決するために高校生が観光ガイドを行い、北木石の魅力を発信し、後世に伝えようと考えた。このスライドは、昔ながらの映画館から北木石の採掘場などをスタンプラリー形式で表したもので、北木石のスポットを順番に歩きながら巡る観光コースのようにになっている。</p>

## 【第2部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
勝 山 (蒜山)	<p><b>持続発展可能な社会の実現のため、私たちにできること</b></p> <p>令和3年度に取り組んだ、学校設定科目「蒜山Ⅲ」での、「中庭班」及び「うおうお班」の活動を中心に、蒜山校地の目指す「持続発展可能な社会づくり」について報告する。それぞれのプロジェクトの、完成後の状況・課題、今後への導線について説明した後、さらに他校との「学びの共有」を目指して、3年間の取組で手にした「課題にアプローチする姿勢」について発表する。</p>
真 庭	<p><b>よすがプロジェクト ～シェアハウス作りで人の輪を広げる～</b></p> <p>真庭市落合地区出身の5名が、過疎地域の空き家問題、人生プランの多様化に着目し、地域の方とシェアハウス作りに挑戦した。これまで目に留まらなかったものや気にもならなかったことに気づかされ、SDGsについて考えるとともに、人という財産に触れ合っていくチャレンジ探究。失敗を重ねながらも、「地域の役に立ちたい」、「誰かを喜ばせたい」という想いを原動力に、シェアハウスお披露目会までの軌跡を発表する。</p>
複数校 合 同	<p><b>「被災地に学ぶ」 ～宮城の高校生との交流を通して私たちが伝えたいこと～</b></p> <p>普段災害の少ない岡山県にいと防災について考える機会があまりない。大災害も当事者でなければ次第に記憶が薄れる。しかし、災害はいつどこで起こるかわからない。私達はオンラインで宮城県の亘理高校の生徒と、宮城県の中浜小学校見学、アーカイブワークショップを行い多くのことを学んだ。そして、様々なことを考える多くの気づきがあった。私達が出来ることが「知ること」と「伝えること」そして、「自分事として考えること」だ。</p>

### 【第3部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
西大寺	<p><b>地産地消を広めたい！！</b></p> <p>環境問題が悪化していく中で何か私達にできることはないかと考えたとき、身近な取組として、「地産地消」のものをもっと買うことができないかと思った。実際に「地産地消」を行っている店舗にインタビューをし、工夫点や現状を聞き、生産者や我々消費者にも多くのメリットがあり、環境にも良いことが分かった。若い世代の人達にももっとこの魅力を知ってもらい、広めていきたい。</p>
岡山工業	<p><b>地域とつながれ ～ものづくりを通じた地域貢献活動～</b></p> <p>私達は、県総合グラウンドの利便性を高めるため、ベンチの製作・寄贈を行っている。資材は同じSDGsのゴールを掲げている県内企業と連携を図り、提供してもらった。活動をスムーズに行うため、グループとチームの違いを理解し、真のチームになるためパフォーマンスカーブ（チーム成長曲線）やワークショップを通してその考え方を学んだ。またSDGsについても学習し、それらを活かして活動している。</p>
岡山御津	<p><b>御津ライオンズによる、御津獅子舞のための継承プロジェクト</b></p> <p>岡山市北区の北部の伝統として残っている獅子舞。疫病や災いから人々を守り、農業の繁栄も支えてくれている。御津の魂として、現在も獅子舞団体が活動しているのだが、後継者不足や若い世代への認知度の低さなどで獅子舞の魂が正しく継承されにくくなっている。その状況を打開するために、岡山御津高校の生徒が立ち上がり、若い世代への普及活動を自ら考え、企画し、実践してきた。その成果を伝える。</p>
倉敷古城池	<p><b>干潟にハマって考えた ～児島の海岸調査から社会をみる～</b></p> <p>KT（総合的な探究の時間）の理学・環境チームは、みずしま財団や地域の方の協力のもと、児島の通生海岸の生物と海ゴミの調査を月一回行っている。この干潟には貴重な生物が見られる一方で、流れ着いたプラスチックゴミも多数存在する。ゴミから生じたマイクロプラスチックもたくさん採取されるが、その中には稲作で用いる肥料のかすが目立つ。私達は海岸から社会が抱える問題に気づき、新たな探究へと進んでいる。</p>
倉敷商業	<p><b>地域とlink! 地域をcreate! ～倉商観光 PBL in 倉敷美観地区～</b></p> <p>地域とつながり、地域をつくる。倉敷美観地区を中心に展開するプロジェクトを紹介する。チーム倉商として、課題研究「倉商AAA（観光ガイド）」、「地域経済探究（“倉敷 show たいむ”）」、「繊維製品 PR「倉商ツムグプロジェクト」」、書道部「倉書プロジェクト」の4プロジェクトに取り組む。地域の商業高校ならではの観光 PBL を通して、学校と地域のつながり、地域と自分のつながり、何を知り、何を学んだのかを発表する。</p>
津山東	<p><b>中山間地域で活かす高校生のチカラ ～地域課題を自分事として探究～</b></p> <p>高齢化・過疎化が進む県北部の中山間地域等において、地域の抱える課題を解決するために様々な取組がなされている中、高校生のチカラ（斬新な発想、世代間をつなぐ力、行動力など）によって、持続可能な地域社会づくりを目指すことに取り組んだ。実際に現地に赴いて聞いたことや感じ取ったことを踏まえ、見いだした課題を自分事と捉えて、対話と修正を重ねながら解決策を提案していく探究活動について紹介する。</p>

【第3部】発表内容（ステージ発表）

高 校	テーマ(上段) 及び 内容(下段)
津 山 工 業	<p><b>地域と連携・協働した「おもいやりのものづくり」 ～地域の課題解決を目指して～</b></p> <p>私達は、全国的に問題となっている放置竹林に注目し、その課題解決に向けた活動を行っている。私達の強みである「ものづくり」を生かし、伐採された竹資源の有効活用に取り組む。地域と連携・協働した環境改善の活動を通して、「おもいやりのものづくり」で地域の課題解決を目指す。</p>
津 山 商 業	<p><b>真庭市の観光</b></p> <p>真庭市には蒜山高原や湯原温泉など、地域ごとに有名な観光地がある。しかし、よく見ると地域により大きな差があるように思える。そこで、私達は、久世・勝山地域に着目し、調査・研究を進めることにした。この地域には、お雛祭り、秋祭りと地域の文化を代表する祭りがある。これらの祭りは、春・秋を代表する祭りであるが、その他の季節においても賑わいを創出したいと考えるに至った。私達が考えるこれからの観光を報告する。</p>
高 梁 城 南	<p><b>「JonaCafe」を中心とした地域創生人材の育成 ～JonaCafeを通じて学んだ10のこと～</b></p> <p>何のためにカフェをやるのかという問いに「カフェを通じて学校や地域のことを知ってもらい、地域を盛り上げたい」という共通の目標の上で活動した。季節ごとのメニュー開発や、地域の団体、地元小学校などとも連携し、地域のPRにカフェを通じて関わってきた。生徒たちが感じた集客の難しさや地域を魅力的にPRする商品開発など、運営する上での苦労や、生徒自身が成長したポイントを10個のエッセンスにまとめて発表する。</p>